Ｒ07 児童朝会の話　No.１３【オンライン】

中秋の名月・運動会に向けて

2025.10.6　校長　西谷　秀幸

１年間で一番キレイに見える秋の月のことを「中秋の名月」と言います。「十五夜」とも言われていますが、今夜は、その「中秋の名月」の日なのです。

去年の秋は、日本のいろいろな場所で、この「中秋の名月」を見ることができました。ホームページに写真が載っていたので、いくつか紹介します。

この「中秋の名月」の日には、「月見団子」と言って、お米で作った団子を月に見立ててお祝いをします。金曜日には、給食でも「月見団子」が出ましたね。秋にお米がたくさん取れたことに感謝して、「月見団子」をお供えするようになったのだそうです。

さて、昔の日本人は、この満月のお月様を見て、「うさぎが餅をついている」と想像しました。なるほど…言われて見れば分かる気もしますね。お隣の国、韓国でも同じように「うさぎが餅をついている」と想像しましたが、中国では、お餅をついているのではなく、「薬を作っている」と想像しました。

では、そのほかの世界中の国々では、満月をどのように想像しているのでしょうか。

ヨーロッパの南の方では、ウサギではなくて、「カニ」がいると考えました。また、同じヨーロッパでも北の方の人たち「本を読む女の人」と考え、ブラジルなどの南アメリカでは「ロバ」や「ワニ」の姿を想像しました。
アラビアの方では、向きを変えて「吠えているライオン」を想像し、ヨーロッパの東の方やアメリカでは「髪の毛の長い女性」の姿を想像したそうです。
皆さんには、どんな風に見えるでしょうか。

今夜の天気予報は、くもりなので、今年は「中秋の名月」を見られるかどうか心配ですが、月がキレイに見える満月の日には、ぜひ、どんな風に見えるか、月を見てみましょう。

さて、話は変わりますが、いよいよ今週の土曜日は運動会です。
先日、全体練習のときに、「気持ちの良い拍手の仕方」について話をしました。

その運動会を迎えるにあたり、皆さんに２つ話があります。
１つめは、「負けたときにこそ、気持ちの良い拍手をしてほしい」ということです。

運動会では、玉入れや台風の目、棒引き、大玉送りなど、勝ち負けがある競技があります。当然、勝ったチームは、自然にガッツポーズをしたり、自分たちで拍手をしたりして喜んでいるし、負けたチームはガッカリして残念がります。

でも、以前、ある学校で、負けたチームが、本当は悔しいはずなのに、勝ったチームに気持ちの良い拍手を送っていたことがありました。これって、分かっていても、なかなかできないことです。とても素晴らしい…と思いました。

誰だって、自分のチームが勝つと嬉しいし、負けると悔しいのは当たり前です。だからこそ、負けて悔しいときこそ、「相手がしてもらって嬉しい気持ちの良い拍手」を送って、最高の運動会にしましょう。

もう１つは、「本番でどんな結果になっても、ミスをした人を責めることはしないでほしい」ということです。

この中には、わざとミスをする人なんていませんよね。これも、前にある学校であったことなのですが、運動会の練習で、８回中７回、１位になっていたチームが、本番で今までしたことのない大きなミスをして４チーム中、3位になったしまったことがありました。
当然、ミスをした子は大泣きしています。でも、クラスの友達は誰一人、その子に「おまえのせいだ！」なんて言う子はいなく、みんなで優しく声をかけて励ましていたので、そのミスをした子も笑顔で運動会を終えることができました。

今年の運動会のスローガンは「楽しもう　みんなが主役　笑顔の輪」です。勝っても負けても、みんなが笑顔で楽しい運動会になるように、この２つのことを忘れないで取り組みましょう。

これで朝会の話を終わります。

（裏面に「先生方へ」があります）

〈先生方へ〉

いよいよ、今週末が運動会となりました。子供たちが日本独自のスポーツ大会である運動会を楽しむことができるように、子供たちの気持ちを高めていきたいですね。疲れもピークに達して、ケガが多くなる時期ですから、ピシッとさせるところと緊張をほぐして休ませるところを分け、メリハリをつけて指導していくことを心がけてください。最終週、御指導をよろしくお願いします。

さて、運動会にあたり、子供たちに２つのことを話しました。１つめは、「負けたときにこそ、気持ちの良い拍手をしてほしい」ということ、もう１つは、「本番でどんな結果になっても、ミスをした人を責めることはしないでほしい」ということです。

運動会は、拍手をする機会が、もしかしたら１年間で一番多いのではないか…というくらいたくさんあります。そして、玉入れや台風の目、棒引き、大玉送りなど、勝ち負けがある競技があるため、当然、勝ったチームは、自然にガッツポーズをしたり、自分たちで拍手をしたりして喜ぶし、負けたチームはガッカリして残念がります。でも、過去に本当は悔しいはずなのに、負けたチームが勝ったチームに対して、気持ちの良い拍手を送っていることがありました。これは、分かっていてもなかなかできないことです。

また、以前の学校のことですが、運動会直前に、あるクラスの担任が「本番でどんな結果になっても、ミスをした人を責めることはしないでほしい。わざとミスをするはずがないのだから…。」と指導をしていたことがありました。すると、練習で８回中７回１位になっていた常勝だったチームが、練習では一度もしなかった大きなミスをしてしまい、運動会の本番で３位になってしまったのです。担任が、子供たちはどうするだろう…と見ていたところ、一人としてミスをした友達を責める子はおらず、反対にミスをして泣いてしまった友達をみんなで励ましていたそうです。そのおかげで、クラス全員が気持ちを切り替えて他学年の応援をすることができました。ちなみに、この学年の子供たちは、勝っても負けても常に相手チームを称える気持ちの良い拍手をしていました。

こういったことは、特別な学校行事である「運動会」だからこそ、身に付けられる力なのではないと思います。運動会のスローガン「楽しもう　みんなが主役　笑顔のわ」が達成できるように、各学年で発達段階に応じて、指導と補足をお願いします。

【資料】　「中秋の名月」とは…

中秋の名月とは、旧暦の8月15日にお月見をする日本の風習を指します。旧暦では7月を「初秋」、8月を「仲秋」、9月を「晩秋」と区分としており、「仲秋」が旧暦8月の全体を指すことに対し、「中秋」は秋全体の中日を意味し、旧暦8月15日のみを指します。その晩に上がる月を「中秋の月」と呼んでいたのが、中秋の名月の由来の始まりです。秋が深まり、空気が冷たくなる頃には、秋晴れが続いて空も高く見えます。夜に見える月もきれいなことから、この頃に上がる満月を「中秋の名月」と呼ぶようになったのです。この中秋の名月の祭事は、もともと中国から伝わり、日本では平安朝以降に貴族の間で盛んに催されました。江戸時代には一般庶民の間でも広く行われるようになり、次第に現在の形に変化しています。

ちなみに、「中秋の名月」は旧暦では8月15日ですが、新暦を採用している現在では毎年、日付が変わります。月の満ち欠けをベースとする旧暦では、満月になるのが毎月15日と決まっていましたが、地球が太陽を回る周期をベースとした新暦では、満月の時期が年によって異なるからです。そのため、9月の上旬頃になることが多い「中秋の名月」が、2025年は10月6日になります。また、「中秋の名月」＝「満月」とは限らず、2025年は、満月が10月7日の12:48となるようです。

なお、「中秋の名月」に似た言葉に、「十五夜」（新月の日を1日目としたときの15日目の夜）がありますが、「十五夜」と呼ばれるのは、旧暦の8月15日だったためです。旧暦では毎月1日が新月で、15日が満月もしくは、ほぼ満月でした。新暦と異なり、旧暦では1か月が月の満ち欠けの周期に合わせて29日ないし30日で計算されており、3日には三日月、15日には満月を毎月見ることができたのです。

さて、お月見のお供え物といえば、月見団子ですが、月見団子はその名の通り、丸い団子で月を表現していると言われています。　また、「十五夜」は別名「芋名月」とも呼ばれ、里芋やさつまいもなどの芋類を供える地域があります。これは稲作以前の、里芋などの芋類を主食として食べていた頃に、「十五夜」に秋の収穫物である里芋を供えていた名残である説が有名です。